

建設情報誌

C-net 通信

Construction



Vol. 1

さ

が

『C-net通信』で

検索

2015年1月1日

発行所：(株) NSC

<http://www.nsci.co.jp>

■会員料金■
(ネット+冊子)

— 唐津市と友好姉妹都市20周年 —

濟州島西帰浦市一行が工場視察

韓国で発泡人工ゼオライト

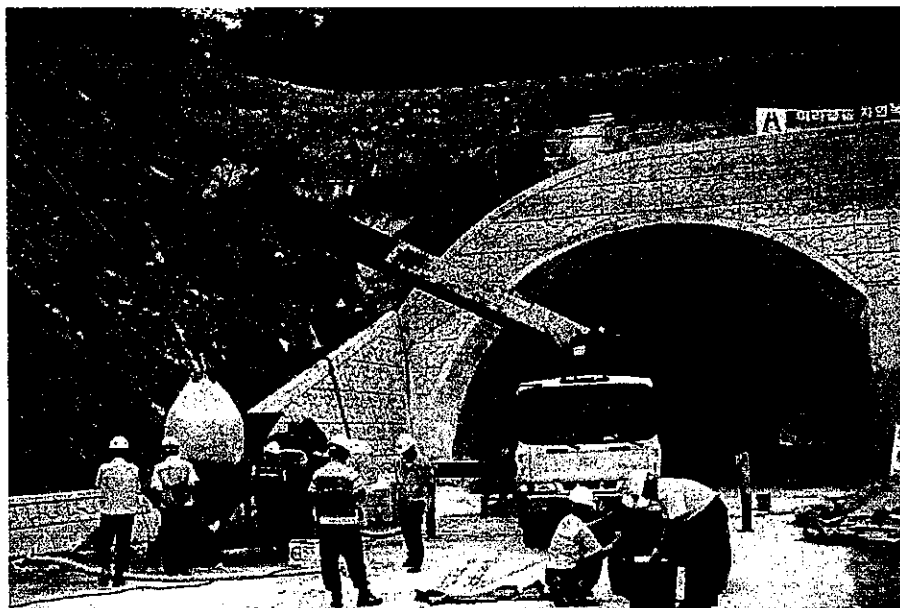
日本建設技術㈱（原裕社長、本社・唐津市北波多）は、ガラス廃材を再利用した発泡廃ガラス「ミラクルソル」による環境緑化や透水性舗装などの特許工法を有するが、発泡廃ガラスによる人工ゼオライト製造の特許を韓国で取得した。去る12月には唐津市と友好姉妹都市を締結している濟州島西帰浦（ソギポ）市の市長ら一行が締結20周年で来唐した折、同社を訪れ製造工場を視察。友好関係発展に一役買った。同社は7年前に韓国の高速道路の建設現場でミラクルソルによる岩盤斜面緑化の実績もあり、原社長は発泡廃ガラスによる環境工法を韓国で広めたい意向だ。



玄乙生（ヒョン・ウルセン）西帰浦市長（左）と原社長

同社が韓国で取得した特許は、「ゼオライト化発泡ガラス製造方法およびゼオライト化発泡ガラス製造設

備」。発泡廃ガラスのミラクルソルについても、同国で特許審査中だ。



韓国の高速道路トンネル坑口上部をミラクルソル工法で緑化（2007年9月）

同社は7年前の2007年9月に、韓国の高速道路建設現場2カ所で、「ミラクルパーソイルストップ工法」による岩盤斜面の緑化を施工した。その際、同国での実績を増やしたい原社長に対し、韓国道路公社から受注したソウルの建設会社社長は「韓国で特許を取ってないでしょう」と現実的な発言を呈した。

「あれから特許取得に6年を要した。ミラクルソルも特許審査中で、反論など特許取得の手続きを続行中です。」と原社長は話す。

ソギポ市長「環境保全技術は意義深い」

日本建設技術㈱が本社を置く唐津市は、韓国濟州島西帰浦市と1994年9月14日に友好姉妹都市を締結。締結20周年記念行事で唐津市を訪れたソギポ市の市長ら一行14人は12月6日、同社を訪問。原社長が会社の事業内容を説明した後、ミラクルソル製造工場を視察した。

ソギポ市の玄乙生（ヒョン・ウルセン）市長は「今、

資源リサイクルは、地域だけでなく地球的な問題です。（ソギポ市の）きれいな自然の保全に頭を悩ませている。土木だけでなく、環境保全に技術を活用されている、こちらの事業は意義深い」と、視察後に話した。

そして、「濟州島は、火山が隆起してできた島で、漢拏山（ハルラサン）に降った雨は、400m地下に浸透し浄化され海に流れている」と、年間400万人

製造方法と設備の特許取得

以上の観光客が訪れるソギボ市の自然の魅力を語った。記者が「自然のミラクルソルですね。」と話を向けると、秘書の女性らと一緒に大きく笑って肯いた。

西帰浦(そぎぼ)市は、人口15万7千人。済州道最南端の港町で島内第2の都市。奇岩絶景とともに天然記念物、珍しい植物などが分布、市全体が観光地として保護されている。五島列島とは南にわずか180キロメートルの距離。唐津市とは下水道の行政視察を機に、姉妹都市を締結し、職員派遣や老人会交流のほか、済州島から始まったオルレ(自然を楽しむトレッキング)の九州版「九州オルレ」(12コース)に唐津市も認定されている。

西帰浦市の視察に対し、原社長が『産業廃棄物と建設副産物のガラス廃材を再資源化した「多目的環境材料ミラクルソル&ゼオライト化ミラクルソルの活用技術」—水環境工法・環境土木工法・環境緑化工法〜』と題したレジメで、会社の事業内容について通訳を介して説明した。

目次を紹介すると、1. ミラクルソル工法開発の背景及び目的—①現在の地球における炭素の循環②最近の温度変化③これからのものづくりの条件&これからの工法採用の条件 2. ミラケ



通訳を介して同社の事業を説明



ミラクルソル製造工場を視察

ルソル工法—①ミラクルソルの製造工程②ミラクルソル&ゼオライト化ミラクルソル③ミラクルソルの特性

④ミラクルソルのクラスター構想 3. ミラクルソルの最近の話題—①日本水大賞を受賞して②世界初…クロマグロの陸上養殖③有明海底質改善技術④緑の防潮堤⑤ゴムにミラクルソルを⑥「FWG透保水性舗装工法」地盤工学会九州支部から「技術賞」受賞⑦皇居外延濠(内濠)の水質浄化

4. 環境土木工法—①FWG・透保水性舗装工法②FWG・グリーンパイプメント工法 5. 環境緑化工法—①その他の緑化工法



トルハルバン除幕式(波戸岬) 2014年12月6日